

インターネット公開許諾のない文章には
墨消し処理を施しています。

随想

現世利益

坪井俊映

昨今の文化生活といえば、家庭の台所には電気洗濯機に電気冷蔵庫、居間にはテレビにステレオが幅をきかし、客間では冬はガス・ストーブ、夏はルーム・クーラーがまつられ、門前には自家用自動車が控えているのが、文化生活の一形態とされている。つぎ／＼と便利な器械が発明され、一昔し前の人が数時間かかつてやつた仕事もわずか数分で、しかも少しの間違いもなく仕上げるようになってきた。また予防衛生と食事情の改変は「人生五十年」といわれたのは昔の物語りで、今日では「人生六十五年」とでも云い変えねばならなくなつた。そのみではなく、医学の進歩は人間の生命もある程度まで、カネさえあれば買うことの出来る時代である。瀕死の病人が血液銀行より購入した輸血によつて助かつた例はいくつもある。カネさえあれば現代人の求むる文化生活もなが生きもある程度まで出来る——いわゆるカネによる物質文化万能の時代とでも評することが出来るのが、昨今のご時勢である。それで、このカネを求め、カネのために働き、争い、またストライキを行つて互いに苦しみあえている。人間の慾望は無限に発展するものであるから、カネによる文化生活を追うかぎり、それがための苦惱は永久に絶える

随想

ことがない。カネは文化生活をするための手段であり、方法であるにかゝらず、これを直接の目的とし、それがために汗水を流しているのが現今の人間である。言い換えればカネに人が使われている。使うべきものであるにかかわらず、逆にカネのために使われているのが今日の世相である。このカネによる物質文化の発展に人間生活の幸福を求めんとする社会にありては、唯物的な現世利益を説く諸宗教が俗耳に入り易く、内観的な精神主義を教える浄土教が一般になか／＼理解され難い一面を有している。現代の民主主義も共產主義も人間の文化は一途に向上して、人類は無限に進歩し、地上樂園のような文化社会が到来するという一の確信をもっている。それは人間は自己の智慧と意志によつて、より良き社会、よりよき人間に向上発展するという確信である。

そこには謙虚な心になり、自我を棄てて人間を超越した神や仏を敬愛するという考えは存在しない。この人間至上主義は人間を唯一絶対の權威とし、人間を超越した一切の權威を否定し、人間を神の座、仏の座にすえた独善主義である。ここで考えられる神仏は人間に御利益を与え、人間の文化生活に奉仕する神仏である。元來神や仏は人間に奉仕するものでなく、人間によつて奉仕されるものである。この人間に奉仕する神仏を求めて、人間によりて奉仕される神仏を忘れた所に現代思想の危機がひそんでいるのではないか。